

愛知大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

2022（令和 4）年度 自己点検・評価報告書

自己点検・評価を行う体制

愛知大学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会

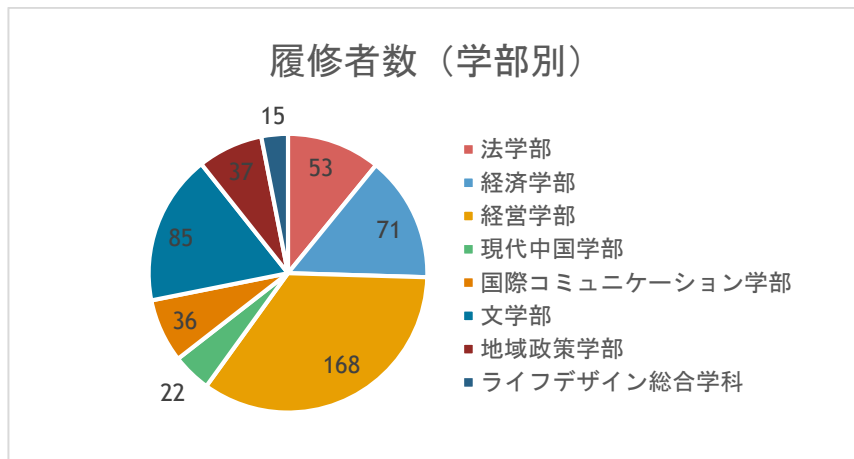
責任者 中尾 浩（教学担当副学長）

2022（令和 4）年度の状況

プログラムの履修状況

全学生数 9,714 名 履修者数※ 487 名（うち 450 名が修了） 履修率 5%

※2022 年度以降入学者のみ履修可能



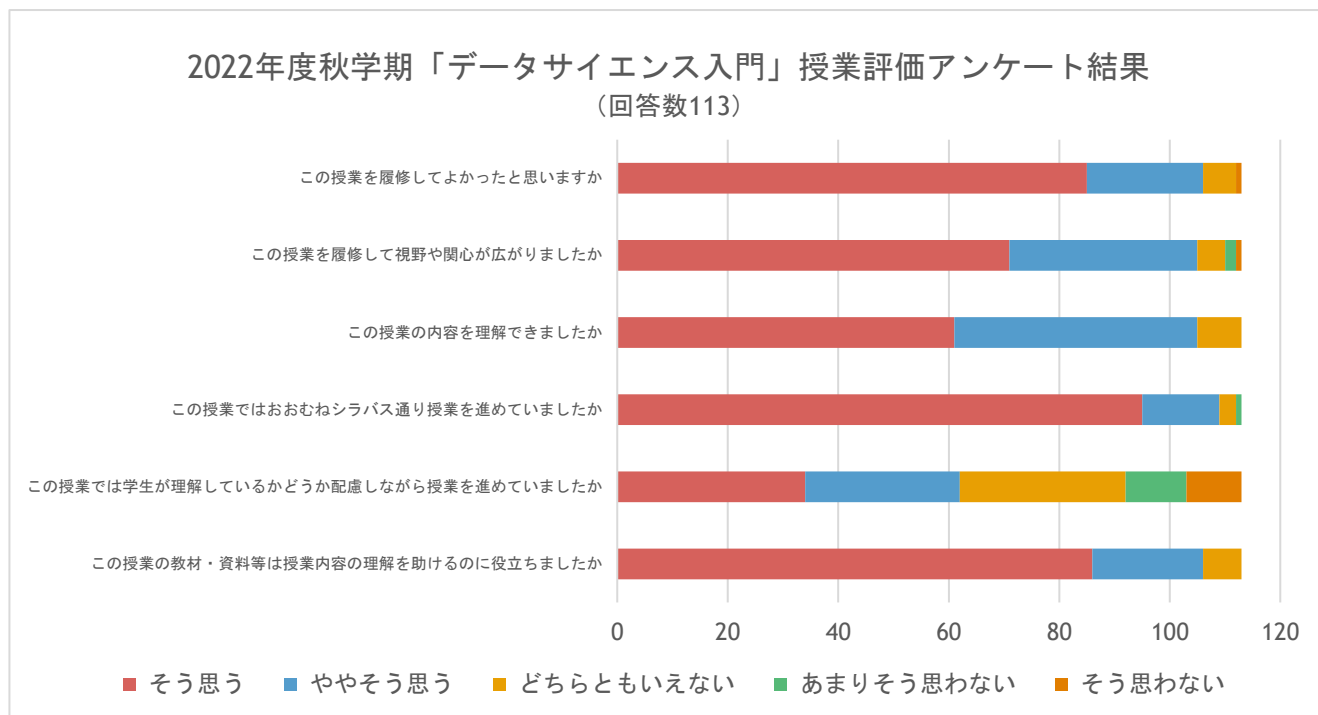
学内からの視点

プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

- 本学名古屋、豊橋校舎の各教務課にて本プログラムの履修・修得状況を管理するとともに、これらのデータは本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会と共有し、本プログラムの評価・改善に活用している。
- 本学学習・教育支援センターが実施している「学生による授業評価」アンケートの結果を分析することによって本プログラムの授業内容に対する学生の理解度を把握することが可能である。アンケート結果は本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会と共有し、本プログラムの評価・改善に活用している。

学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、後輩等他の学生への推奨度

- 本学学習・教育支援センターにて毎年度「学生による授業評価」アンケートを実施している。本アンケート結果は本学学習・教育支援センター委員会にて集約され、本学ホームページ上で公開している。また、このアンケート結果は、本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会にも提供され、同部会において本プログラム受講者の理解度等の分析に役立っている。
- 本プログラム受講者に対し、2022 年 12 月に実施した「学生による授業評価」アンケートの中で、後輩等他の学生への推奨度について確認を行った。その結果を学生へ公開することで、講義受講の推奨に活用する。



履修者の声（2022 年度秋学期授業評価アンケートより）

- Excel の演習課題は難しかったが、普段触れることの無いものだったので、新しいことが学べて良かった。演習があることで、授業を聞いて小テストを受けるだけの作業的なものにならず、身をもって体験できるのが良かった。
- 自分のペースで授業を進めることができたので良かった。データサイエンスについてよく知ることができた。
- エクセルの使い方を習得できた。短い動画が多くて、集中力が高いままで受けられた。
- 動画で課題の解説を見ながら課題が出来たので理解を深めることが出来た。
- 授業の満足度は非常に高かった。経営の勉強に繋がる部分が多いと感じたので、特に経営学部の学生はこの科目を取ると良いと思う。小テスト解答後、答えを見ることで確認することができるのは学習の助けになるが、他の履修者に答えが広まってしまう恐れがある点が改善点だと思う。
- プログラミングは、大学に入学して初めて触れたがとても難しかった。
- 動画も丁寧に説明されていてわかりやすかった。

全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

- ・令和 4 年度春学期は、すべての学部から本プログラムへの受講者を得ることができた。学部別受講者数で見ると、現代中国学部の学生が最も少ない結果となった。現代中国学部の学生には、新入生オリエンテーション等での周知の一層の強化を検討したい。プログラム全体の履修者数は 472 名で、そのうち修了者は 450 名（95%）であった。全体の履修者数が想定よりも低い結果となった。令和 4 年度の実施結果を踏まえ、本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会を中心となり、各校舎教務課と連携し、履修者数の向上に向けた検討を進めていく予定である。

学外からの視点

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価に関する事項

- ・本プログラムは令和 4 年度より開講されたため、当該科目を修得し、単位を修得して卒業した学生はいない。本学キャリア支援センターでは、卒業年次生に対し、進路・就職状況アンケートを行うとともに、卒業後 3 年が経過した卒業生にアンケート調査を実施している。これらにより、今後、本プログラム修了者の進路、活躍状況等を把握することは可能である。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等に関する事項

- ・自治体や企業等に対して、本プログラム内容・手法等への意見を、数理・データサイエンス・AI 教育運営部会長がまとめ、数理・データサイエンス・AI 教育運営部会で、企業等が大学に対してどのような期待や習得すべき技能や知識を求めているかなどを把握しプログラムの改善に活用していく。

改善に向けた取組

数理・データサイエンス・A I を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

- ・「データサイエンス入門」について、身近な社会における AI の利活用をテーマしており、数理・データサイエンス・AI 教育を実体験に即した経験として考えることができ、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解するように促している。また、「社会データ分析入門」「情報と社会」（1 年次春学期より履修可）を履修することにより、学修効果を高める。

内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

- ・本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会にて「学生による授業評価」アンケート等を参考にし、随時、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しについて検討している。